学校教育計画（令和２年度～令和５年度）

◎　学校のミッション

○全日制普通科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えるため、学年制によるカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組み、学力の育成、豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することをめざした学校づくりに取り組む。教育課程については、共通教科・科目を中心に、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえながら普通科として適切な編成を行う。

○これまで、社会における自己の果たすべき役割を踏まえ、他者と協力しながら、自己実現に向けて主体的に行動できる人材育成をめざし、高大連携をはじめとする学校外の学修の単位認定など、多様な教育活動に取り組んできた。また、生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めることをめざした不断の授業改善の実施等、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向け、教育活動の充実に取り組んできた。以上の取り組みを踏まえて、今後は、学校全体で、「教育課程研究開発校（新科目『公共』に係る研究）」として研究開発に取り組み、その成果を地域の県立高校に様々な機会を設けて普及する。

◎　学校教育目標

(1)　教科を軸として、生徒の進路希望に合致したカリキュラムを編成する。

(2)　授業改善を推進するとともに、英語力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・ＩＣＴ利活用能力等を育成する。

(3)　生徒の学力向上に向けて、大学との教育連携を進める。

(4)　学校行事や課外活動を通して、生徒の主体性や公共心の育成を図る。

(5)　キャリアガイダンスを通して計画的に発展的な学習に取り組めるようにし、進路における第一志望実現を支援する。

(6)　シチズンシップ教育・ボランティア活動・インターンシップ等を通して、公共の意識を高めるとともに、グローバリゼーションの進展する社会で創造性を発揮する人材を育成する。

(7)　学校評価の仕組みを活用して開かれた学校・安全安心な学校づくりを推進する。

◎　４年間の目標と主な方策

	視点	４年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	・本校の特色・生徒の進路実現に沿ったカリキュラムを編成する。 ・コミュニケーション能力、ICT運用能力を高めさせる授業を推進する。 ・生徒が主体的に学習に臨むための課題設定や家庭学習の推進、講習などへの参加を促進する。	・新学習指導要領に合わせたカリキュラムを編成する。 ・組織的な授業改善の継続と授業改善に向けた情報収集体制の強化及び講習等を実施する。 ・ICTを効果的に利活用して生徒の学力・諸能力を高める授業実践を研究する。 ・高大連携事業を積極的に活用する。
2	（幼児・児童･） 生徒指導・支援	・学校行事、委員会活動、部活動、ボランティア活動を通じ自主自立の精神を確立し、次世代を担えるリーダーの育成に努める。 ・挨拶を軸とした規律ある学校生活を確立させる。 ・教育相談体制を更に充実させる。	・学校行事や委員会活動などの企画及び運営を生徒主体で行い、それを通してリーダーとしての意識を高める。 ・生徒と連携した挨拶運動等の更なる展開をする。 ・担当以外の教職員を含めた組織的な相談体制づくりを強化する。
3	進路指導・支援	・希望の進路実現のために、高校入学後の早期に進路意識を高めさせる。	・１学年入学直後から、高校卒業後の進路を考えさせるようなプログラムを、総合的な探究の時間を中心に取り組む。
4	地域等との協働	・シチズンシップ教育及びボランティア活動を通じて、主体的に社会の形成に参画する意識を醸成する。 ・地域の教育力を活用した学びをとおして、家庭や地域社会との共通理解を深めさせる。	・地域社会と連携した活動や行事等を企画し、積極的に参加する機会を拡充するため、校内体制を構築する。 ・地域の人材を活用して実社会により密接な生きた授業を積極活用する。
5	学校管理 学校運営	・コンプライアンスを重視した事故不祥事の防止の継続的な取組を行う。 ・安全安心で円滑な学校生活が送れるような校内環境を維持する。 ・教職員が心身ともに健康的に教育活動に従事できる職場環境を整備する。	・具体的な事例に基づいた事故防止研修をとおした啓発活動を推進する。 ・施設設備を適正に管理し維持するとともに校内美化を推進する。 ・出退勤時刻を客観的に確認する手立てを講じ、時間外勤務を減少させる。